YAESU
The radio

144/430 MHz
DUAL BAND FM TRANSCEIVER

FT-65

取扱説明書 詳細編

各ページの右下の アイコンをクリック（タップ）すると、いつでも目次に戻ることができます。

目次

本書について **3**
RF スケルチ **4**
電池電圧を確認する **4**
音声による自動送受信切り換え（VOX）機能
（オプションの SSM-512B が必要です） **4**
スプリット（たすきがけ）運用 **5**
スケルチ機能を使う **6**
スケルチタイプの選択 6
トーンスケルチの周波数を設定する 7
DCS コードを設定する 7
相手からの呼び出しをベルで知らせる設定 8
新ページャー（EPCS）機能 9
新ページャー（EPCS）機能を動作させる 10
ページャーアンサーバック機能 10
メモリーバンクを使う **11**
メモリーバンクに登録する 11
メモリーバンクを呼び出す 11
メモリーバンクモードからメモリーチャンネルへ戻す 12
メモリーバンクから割り当てたメモリーチャンネルを解除する 12
メモリーオンリーモード **13**
スキャン機能 **14**
メモリースキャン操作 14
スキャンスキップ設定 14
プログラマブルメモリースキャン（PMS） 15
優先チャンネルスキャン操作（プライオリティ機能） 16
ダイアルプライオリティ（VFO モード⇔メモリーチャンネル） 16
メモリープライオリティ（メモリーチャンネル⇔メモリーチャンネル） 16
HOME プライオリティ（HOME チャンネル⇔メモリーチャンネル） 17
プライオリティリバート 17
スキャン停止時のバックライト点灯機能 17
緊急を知らせる（エマージェンシー機能） **18**
ARTS 機能 (Automatic Range Transponder System) **19**

ARTS 機能のセットアップと操作方法 19
ARTS チェック間隔の設定 20
ARTS アラーム設定 20
CW ID の設定 21
DTMF 機能を使う 22
手動で DTMF コードを送出する 22
オートダイアラ 23
オートダイアラで DTMF コードの送出 23
その他の設定 24
パスワード機能の設定 24
パスワードの設定とパスワード機能のオン / オフ 24
周波数ステップを設定する 24
送信パワーセーブ機能の設定 25
送受信時の送受信インジケーターの点灯をオフにする 25
自動的に電源をオフにする (APO 機能) 26
連続で送信できる時間を制限する (TOT 機能) 26
信号を受信中に送信を禁止する (BCLO 機能) 26
送信変調度を変更する 27
ボイスコンパンダー機能 27
クローン操作 28
セットモード一覧 29

本書について

本書では、FT-65 の詳細な機能に関しての説明が記載されています。
本製品に同梱の取扱説明書と共にご覧ください。

本書は、下記の記号を使って、重要な情報が記載されていることを表しています。

記号	説明
!	このアイコンは、お客様にご理解していただきたい注意と警告を表しています。
i	このアイコンは、役に立つ情報やヒントを示しています。
📖	このアイコンは、関連した情報が記載されている他のページを示しています。

- ご購入時に設定されている機能の設定状態を「初期値」と表記しています。
- 画面に表示されるセットモードの名称、トランシーバーのボタン名は本書では太字で表示しています。

RFスケルチ

設定以上の信号強度(Sメーター値)の信号を受信したときだけ、音声を出力するように設定します。

F キー長押し (セットモードに入る)	→	⇕キー押し (26 RF SQL 選択)	→	F キー押し

1. [▲]または[▼]キーを押してSメーターのどのレベル以上の信号の音声を出力するか選択します。

```
26 RF SQL
 →OFF
```

表示	説明
S-1～S-8	設定したSメーター以上の信号を受信したときだけ、音声を出力します。
S-FULL	Sメーターがフルスケールの信号を受信したときだけ、音声を出力します。
OFF	RFスケルチ機能がオフになります。

2. **PTT**スイッチを押すと、設定が保存され、通常画面に戻ります。

電池電圧を確認する

バッテリーの電圧を確認することができます。

F キー長押し (セットモードに入る)	→	⇕キー押し (10 DC VOLT 選択)	→	F キー押し

バッテリーの電圧が表示されます。
PTTスイッチを押すと、通常画面に戻ります。

```
10 DC VOLT
  7.4V
```

トランシーバーの電源をオンにした時もバッテリーの電圧が約1秒間表示されます。

音声による自動送受信切り換え(VOX)機能(オプションのSSM-512Bが必要です)

VOX(Voice Over Transmit)機能は、**PTT**スイッチを押さなくても、音声によって送受信を切り換えることができます。オプションのSSM-512B VOXイヤピースマイクに対応しています。

F キー長押し (セットモードに入る)	→	⇕キー押し (35 VOX 選択)	→	F キー押し

1. [▲]または[▼]キーを押して、"**VOX ON**"または"**VOX OFF**"(初期値)を選択します。

```
35 VOX
 →VOX ON
```

2. **PTT**スイッチを押すと、設定が保存され、通常画面に戻ります。

   VOX機能が起動すると、"VOX"アイコンが表示されます。

スプリット（たすきがけ）運用

VFO-Aに設定した周波数（受信）とVFO-Bに設定した周波数（送信）を使用して、異なる周波数で送受信することができます。**FT-65**でスプリット運用をするには、ABバンド表示にする必要があります。

1. 本機の電源をオフにします。
2. **MONI/T.CALL**キーと**PTT**スイッチを同時に押しながら、本機の電源をオンにします。
   特別な運用モード画面が表示されます。
3. [▲]または[▼]キーを押して、“**F8:DUAL DISP**”を選択します。
4. **F**キーを押すと、ABバンド表示になります。
5. **F**キーを長押しして、セットモードに入ります。
6. [▲]または[▼]キーを押して、“**34 VFO.SPL**”を選択します。
7. **F**キーを押して、設定の変更が可能な状態にします。
8. [▲]または[▼]キーを押して、“**VSP.ON**”を選択します。

```
34 VFO.SPL
 →VSP.ON
```

9. **PTT**スイッチを押すと、設定が保存され、通常画面に戻ります。
10. [**✱V/M**] キーを2度押して、VFO-Aの画面を選択します。
11. VFO-Aに希望の周波数（受信）を入力します（例 145.800MHz）。
12. [**✱V/M**]キーを押して、VFO-Bに希望の周波数（送信）を入力します（例 144.460MHz）。
13. [**✱V/M**]キーを2度押して、VFO-Aをメイン画面（受信）に戻します。
    以上でスプリット（たすきがけ）運用の設定が終わりました。
14. **PTT**スイッチを押すと、受信周波数と送信周波数が入れ換わる“リバース運用”になります。**PTT**スイッチを放すと、リバース運用は解除されます。
    VFO-B（送信）の周波数を変更するには、[**✱V/M**]キーを押してVFO-Bの周波数にし、必要な周波数を入力してから、[**✱V/M**] キーを2度押して、VFO-Aをメイン画面（受信）にします。

スケルチ機能を使う

トーンスケルチを使うと、設定した周波数のトーンが含まれた信号を受信したときだけスケルチが開きます。また、デジタルコードスケルチ（DCS）を使うと、設定したDCSコードが含まれた信号を受信したときだけスケルチが開きます。
これらの機能を使うと、特定の局からの呼び出しを長時間待ち受けている間も、他局の交信にわずらわされることがなくなります。

スケルチタイプの選択

1. **F**キーを押してから[**P3**]キーを押すとセットモードの“**SQL　TYPE**”設定画面が開きます。

セットモードから入る場合は、以下のような手順になります。
F キーを押す → [▲] または [▼] キーを押して、セットモードの “**29 SQL TYPE**” を選択

2. [▲]または[▼]キーを押して希望のスケルチの種類を選択します。

```
SET: SQL TYPE
  →OFF
```

表示	説明	📖
OFF（初期値）	送受信のスケルチ機能をオフにします。	-
R-TONE	受信のみのトーンスケルチをオンにします（RTNアイコンが表示されます）。	-
T-TONE	送信のみのトーンスケルチをオンにします（TTNアイコンが表示されます）。	-
TSQL	トーンスケルチをオンにします（TSQアイコンが表示されます）。 本機で設定した周波数のトーンが含まれた信号を受信するまで、スケルチは閉じています。	-
REV TN	リバーストーンスケルチをオンにします（TSQアイコンが点滅して表示されます）。 通話していないときにトーン信号が含まれ、通話を開始するとトーン信号が消えるスケルチ制御方式の通信を受信するときに使用します。	-
DCS	デジタルコードスケルチをオンにします (DCSアイコンが表示されます)。 送信時に DCS コードで送信し、受信時に DCS コードで受信します。	7 ページ
PAGER	新ページャ機能をオンにします (PGRアイコンが表示されます)。 仲間同士で運用中に、それぞれ個別コード（2 つのトーンを使用したコード）を設定して、特定の局が呼び出せます。	9 ページ

3. **PTT**スイッチを押すと、設定が保存され、通常画面に戻ります。

スケルチ機能を使う

トーンスケルチの周波数を設定する

トーンスケルチを使うと、こちらで設定している周波数のトーンが含まれた信号を受信したときのみスケルチが開きます。
トーン周波数は、67.0Hz ～ 254.1Hzの50種類から選択できます。

F キー長押し （セットモードに入る）	→	⇕キー押し （8 CTCSS 選択）	→	F キー押し

1. [▲]または[▼]キーを押して、“**TX**”または“**RX**”を選択してから、**F**キーを押します。

表示	説明
TX	送信のトーン周波数を設定します。
RX	受信のトーン周波数を設定します。

```
8 CTCSS TONE
→TX:100.0Hz
 RX:100.0Hz
```

2. 希望のトーン周波数が表示されるまで、[▲]または[▼]キーを押します。

選択できるトーン周波数（Hz）					
67.0	69.3	71.9	74.4	77.0	79.7
82.5	85.4	88.5	91.5	94.8	97.4
100.0	103.5	107.2	110.9	114.8	118.8
123.0	127.3	131.8	136.5	141.3	146.2
151.4	156.7	159.8	162.2	165.5	167.9
171.3	173.8	177.3	179.9	183.5	186.2
189.9	192.8	196.6	199.5	203.5	206.5
210.7	218.1	225.7	229.1	233.6	241.8
250.3	254.1	–	–	–	–

3. 選択後に**F**キーを押すと、希望のトーン周波数が保存されます。
4. **F**キーを長押しすると、セットモード内の上層のメニューへ移動します。
5. **PTT**スイッチを押すと、通常画面に戻ります。

DCS コードを設定する

デジタルコードスケルチ(DCS)を使うと、こちらで設定しているDCSコードが含まれた信号を受信したときのみスケルチが開きます。
DCSコードは、023 ～ 754の104種類から選択できます。

F キー長押し （セットモードに入る）	→	⇕キー押し （11 DCS CODE 選択）	→	F キー押し

1. [▲]または[▼]キーを押して、“**TX**”または“**RX**”を選択してから、**F**キーを押します。

```
11 DCS CODE
→TX:023
 RX:023
```

2. [▲]または[▼]キーを押して、希望のDCSコード(3桁の番号)を選択します。

DCS コード一覧									
023	025	026	031	032	036	043	047	051	053
054	065	071	072	073	074	114	115	116	122
125	131	132	134	143	145	152	155	156	162
165	172	174	205	212	223	225	226	243	244
245	246	251	252	255	261	263	265	266	271
274	306	311	315	325	331	332	343	346	351
356	364	365	371	411	412	413	423	431	432
445	446	452	454	455	462	464	465	466	503
506	516	523	526	532	546	565	606	612	624
627	631	632	654	662	664	703	712	723	731
732	734	743	754	-	-	-	-	-	-

3. 選択後に**F**キーを押すと、希望のDCSコードが保存されます。
4. **F**キーを長押しすると、セットモード内の上層のメニューへ移動します。
5. **PTT**スイッチを押すと、通常画面に戻ります。

相手からの呼び出しをベルで知らせる設定

相手局からの呼び出し(同じトーン、DCS、PAGER、ARTS を含む信号の受信)をベル音で知らせます。

F キー長押し (セットモードに入る)	→	⇕キー押し (6 BELL 選択)	→	F キー押し

1. [▲]または[▼]キーを押して、希望のベル音の回数を選択します。
   選択できる回数は、"**1Time(1回)**"、"**3Times(3回)**"、"**5Times(5回)**"、"**8Times(8回)**"、"**CONTINUE**" **(連続)**、または "**OFF (初期値)**"です。

2. **PTT**スイッチを押すと、設定が保存され、通常画面に戻ります。

新ページャー（EPCS）機能

それぞれ個別のコード（2つのCTCSSトーンを使用したコード）を設定することで、特定の局だけ呼び出しをすることができます。また同じコードを設定したトランシーバーのみ待ち受けすることができます。

新ページャー機能は、登録した2つのCTCSSトーンを使います。受信側は、登録したコードと一致するCTCSSトーンペアを受信するまで音は出ません。
呼び出しを受けると、ベル音（設定している場合）が鳴り、**PTT**スイッチを押したときに送信側で登録したCTCSSトーンペアを自動的に送信します。

呼び出されたトランシーバーは、呼び出しが終わったあとに自動的にスケルチが閉じます。新ページャー機能はセットモードの“**21 PAGER**”からオンオフすることができます。

CTCSSトーンペアの登録

F キー長押し（セットモードに入る）	→	⇕キー押し（21 PAGER 選択）	→	F キー押し

1. **F**キーを押します。
   1つ目のTX（送信）トーンコードが点滅します。

```
21 PAGER
 →TX   :05 47
  RX   :05 47
  ACK  :OFF
```

2. 数字キーを押して、1つ目のTX（送信）トーンコードを入力します（下表参照）。

トーンコード一覧									
No.	Hz	No.	Hz	No.	Hz	No.	Hz	No.	Hz
01	67.0	11	94.8	21	131.8	31	171.3	41	203.5
02	69.3	12	97.4	22	136.5	32	173.8	42	206.5
03	71.9	13	100.0	23	141.3	33	177.3	43	210.7
04	74.4	14	103.5	24	146.2	34	179.9	44	218.1
05	77.0	15	107.2	25	151.4	35	183.5	45	225.7
06	79.7	16	110.9	26	156.7	36	186.2	46	229.1
07	82.5	17	114.8	27	159.8	37	189.9	47	233.6
08	85.4	18	118.8	28	162.2	38	192.8	48	241.8
09	88.5	19	123.0	29	165.5	39	196.6	49	250.3
10	91.5	20	127.3	30	167.9	40	199.5	50	254.1

3. **F**キーを押して、2つ目のTX（送信）トーンコードを入力します。
   2つ目のTX（送信）トーンコードが点滅します。
4. 数字キーを押して、2つ目のTX（送信）トーンコードを入力します。
5. **F**キーを押すとTX（送信）トーンコード の設定が完了します。
6. [▲]または[▼]キーを押して、“**RX**”を選択してから、**F**キーを押します。
   上記の手順を繰り返して、RX(受信)トーンコードの設定をします。

7. **PTT**スイッチを押すと、設定が保存され、通常画面に戻ります。

- 初期値 :[**05 47**]
- 2 つのコードは、[**47 05**] と [**05 47**] のように、違う番号でも同じコードとして認識します。

新ページャー(EPCS)機能を動作させる

1. 新ページャー機能を起動するには、「スケルチタイプの選択」を参照してください。
   PGRアイコンが画面に表示されます。

新ページャー機能を起動すると、CTCSSトーンとDCSコード設定が使用できません。

2. **PTT**スイッチを押すと、ページャー機能が動作します。
3. 新ページャー機能を終了するには、上記の手順1で[▲]または[▼]キーを押して、"**OFF**"を選択します。

新ページャー機能を起動中は、相手からの呼び出しをベルで知らせる機能があります。詳細は、8 ページを参照してください。

相手局から呼ばれる (待ち受け時の動作)

ベル機能を設定すると、相手局から呼ばれた時に、"PAGING" 表示が LCD 画面に表示されて、ベルが鳴ります。

ページャーアンサーバック機能

PTTスイッチを押して応答する時に、**FT-65**は、同じCTCSSトーンペアを送信します。**FT-65**では呼び出しを受けた際、自動的に送信状態にすることができるので、交信可能な状態かどうかを相手に知らせることができます。

F キー長押し (セットモードに入る)	→	⇕キー押し (21 PAGER 選択)	→	F キー押し

1. [▲]または[▼]キーを押して、"**ACK**"を選択してから、**F**キーを押します。
2. [▲]または[▼]キーを押して、"**ON**"を選択してから、**F**キーを押します。

3. **PTT**スイッチを押すと、設定が保存され、通常画面に戻ります。

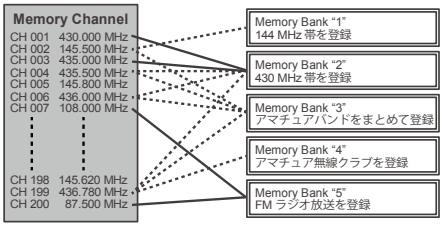
ページャーアンサーバック機能を使用するには、セットモードの "**29 SQL TYPE**" を "**PAGER**" にする必要があります。

メモリーバンクを使う

FT-65では、メモリーチャンネルを10個のメモリーグループに分けることができます。

メモリーバンクに登録する

- それぞれのメモリーチャンネルは、複数のメモリーバンクに登録することができます。
- PMS メモリーチャンネル (L1/U1 ～ L10/U10) メモリーバンクに登録することができません。



1. メモリーバンクへ登録するために[**✱V/M**]キーを押して、メモリーチャンネルを呼び出します。
2. [**#BAND**]キーを長押ししてから、[▲]または[▼]キーを押して、メモリーチャンネルを割り当てるメモリーバンクナンバー(“**BANK 1**” ～ “**BANK10**”)を選択します。

メモリーバンク割り当て時のアイコン表示について

- バンクナンバー点滅 : 割り当て可能ナンバー
- バンクナンバー点灯 : 割り当て済み表示
- “SEL” アイコン点滅 : 選択中

“SEL” アイコン　バンクナンバー

3. **F**キーを長押しすると、メモリーチャンネルをメモリーバンクにコピーします。点滅していたバンクナンバーの点滅が止まります。
4. **PTT**スイッチを押すと、通常画面に戻ります。

メモリーバンクを呼び出す

1. [**✱V/M**]キーを押して、メモリーモードに入ります。
2. [**#BAND**]キーを長押ししてから、[▲]または[▼]キーを押して、希望のメモリーバンクナンバー(“**BANK 1**” ～ “**BANK10**”)を選択します。
3. [**✱V/M**]キーを押してから、[▲]または[▼]キーを押して、メモリーチャンネルを選択します。
   - 現在のメモリーバンクに割り当てたメモリーチャンネルのみが利用できます。
   - “BNK” 表示は、メモリーバンクを運用している間、周波数表示の左側に表示されます。
   - メモリーチャンネルナンバーが " BNK " アイコンの上に表示されます。

   - 別の登録済みのメモリーバンクを選択するには、[**#BAND**]キーを長押しします。

メモリーバンクを使う

メモリーバンクモードからメモリーチャンネルへ戻す

1. メモリーバンク呼び出し中に、[**#BAND**]キーを長押しして、[▲]または[▼]キーを押して "**NO BANK**"を選択します。
2. [**✱V/M**]キーを押すと、メモリーモードに戻ります。

メモリーバンクから割り当てたメモリーチャンネルを解除する

1. 解除するメモリーチャンネルを含むメモリーバンクを呼び出します。
2. [▲]または[▼]キーを押して、解除するメモリーチャンネルを選択して、[**#BAND**]キーを長押しします。
   メモリーバンクから解除されたメモリーチャンネルがLCD画面に表示されます。

3. **F**キーを長押しして、メモリーチャンネルを解除します。
   - 割り当てられたメモリーチャンネルがまだメモリーバンク内に残っている場合は、表示はメモリーバンク表示に戻ります。
   - 割り当てられたメモリーチャンネルがメモリーバンク内に無い場合は、メモリーチャンネル表示に戻ります。

メモリーオンリーモード

VFOモードでは運用せずに、メモリーチャンネルに登録した周波数だけで運用することができます。

1. 本機の電源をオフにします。
2. **MONI/T.CALL**キーと**PTT**スイッチを同時に押しながら、本機の電源をオンにします。
   LCDバックライトが点灯したら、**MONI/T.CALL**キーと**PTT**スイッチを放します。
3. [▲]または[▼]キーを押して、"**F5:MEM-ONLY**"を選択します。

4. **F**キーを押すと、手順は完了です。
   ノーマルモードに戻すには、上記の手順を繰り返します。

メモリースキャン操作

1. [**✱V/M**]キーを押して、メモリーモードにします。
2. [▲]または[▼]キーを長押しして、周波数の低い方から高い方へスキャンを開始します。
3. 信号を受信するとスキャンが一時停止して、周波数の小数点がスキャンを再開するまで点滅します。
4. セットモードの“**25　RESUME**”(37ページ参照)のスキャン再開の条件設定に従って、スキャンを再開します。
5. スキャンを中止するには、**PTT**スイッチまたは、[**✱V/M**]キーを押します。

スキャンスキップ設定

スキャンしたくないメモリーチャンネルを指定することができます。

F キー長押し（セットモードに入る）	→	**⬍キー押し（28 SKIP 選択）**	→	**F キー押し**

1. [▲]または[▼]キーを押して、スキャップするメモリーチャンネルを選択してから、**F**キーを押します。選択したメモリーチャンネルは、黒に反転して表示されます。

2. **PTT**スイッチを押すと、通常画面に戻ります。

スキップ設定したメモリーチャンネルを呼び出すと“M”アイコンがメモリーチャンネルナンバーの下に表示されます。

プログラマブルメモリースキャン（PMS）

希望する周波数間だけをスキャンします。
上限周波数と下限周波数は、必ず同じバンド内の周波数をメモリーしてください。
例として144.300MHzと148.000MHzをメモリーチャンネルに登録する手順を説明します。

1. [**✱V/M**]キーを押して、VFOモードにします。
2. 144.300MHz をメモリーチャンネルL01に設定します（“L” は下限を意味しています）。
3. 同様に148.000MHzをメモリーチャンネルU01に設定します （“U”は上限を意味しています）。
4. [**#BAND**]キーを長押しします。
5. [▲]または[▼]キーを押して 、“**PMS-1**”を選択します。

PMS-（番号）は、現在選択しているPMSの周波数ペアの番号によって変わります。

6. **PTT**スイッチを押すと、通常画面に戻ります。

プログラマブルVFO スキャンの詳細については、**FT-65**の取扱説明書を参照してください。

7. 本機がVFOモードになっているか確認して、**F**キーを押した後で[**#BAND**]キーを押します。
PMSアイコンが表示され、設定した範囲内でスキャンを開始します。

L01/U01からL10/U10の10組のバンド内のメモリーを作成できるので、必要に応じて複数のバンド、複数の部分で上限と下限の周波数範囲を設定することができます。

スキャン機能

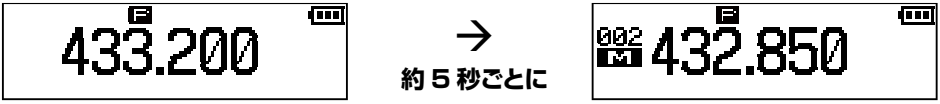
優先チャンネルスキャン操作（プライオリティ機能）

FT-65のスキャン機能は、VFOモードまたはメモリーチャンネルを定期的に設定した間隔でスキャンすることができます。
メモリーチャンネルで信号を受信したら、セットモードの“**25 RESUME**”のスキャン再開設定に従ってスキャンが止まります。

スキャン停止時の動作設定については、37ページを参照してください。

ダイアルプライオリティ（VFOモード⇔メモリーチャンネル）

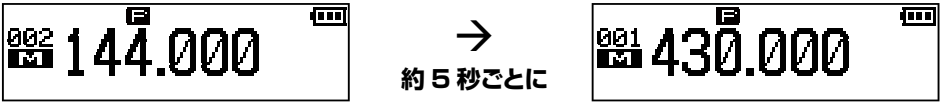
1. 確認したいメモリーチャンネルを呼び出します。
2. [**✱V/M**]キーを押して、VFOモードにします。
3. **F**キーを押してから[**✱V/M**]キーを押して、ダイアルプライオリティモードを開始します。画面にはVFO周波数が表示されていますが、約5秒ごとに指定したメモリーチャンネルに信号があるか確認します。



4. ダイアルプライオリティを中止するには、**F**キーを押してから[**✱V/M**]キーを押します。

メモリープライオリティ（メモリーチャンネル⇔メモリーチャンネル）

1. 確認したい希望の周波数をメモリーチャンネルの001に登録します。
2. 常時受信したいメモリーチャンネルを呼び出します。
3. **F**キーを押してから[**✱V/M**]キーを押して、メモリープライオリティモードを開始します。画面には現在のメモリーチャンネルが表示されていますが、約5秒ごとにメモリーチャンネル001に信号があるか確認します。



4. メモリープライオリティを中止するには、**F**キーを押してから[**✱V/M**]キーを押します。

メモリーバンク機能を使用している場合でもメモリーチャンネル 001 を確認します。

スキャン機能

HOMEプライオリティ（HOMEチャンネル⇔メモリーチャンネル）

1. 確認したいメモリーチャンネルを呼び出します。
2. **F**キーを押してから[**P1**]キーを押して、ホームチャンネルを呼び出します。
3. **F**キーを押してから[**✱V/M**] キーを押して、HOMEプライオリティを開始します。
   画面にはHOMEチャンネルが表示されていますが、約5秒ごとに指定したメモリーチャンネルに信号があるか確認します。

→
約 5 秒ごとに

4. HOMEプライオリティを中止するには、**F**キーを押してから[**✱V/M**] キーを押します。

プライオリティリバート

プライオリティ機能が動作中に、**PTT**スイッチを押すと、設定したメモリーチャンネルで優先的に送信することができます。

F キー長押し（セットモードに入る）	→	⇕キー押し（23 PRI. RVT 選択）	→	F キー押し

1. [▲]または[▼]キーを押して "**RVT . ON**"または、"**RVT . OFF**" (初期値)を選択します。

2. **PTT**スイッチを押すと、設定が保存され、通常画面に戻ります。

スキャン停止時のバックライト点灯機能

スキャンが停止したときにディスプレイとキーパッドのバックライトが点灯するかどうかを設定する機能です。

F キー長押し（セットモードに入る）	→	⇕キー押し（27 SCN. LAMP 選択）	→	F キー押し

1. [▲]または[▼]キーを押して、"**OFF**"を選択します。

2. [▲]または[▼]キーを押して "**OFF**"を選択します。
3. **PTT**スイッチを押すと、設定が保存され、通常画面に戻ります。

緊急を知らせる（エマージェンシー機能）

アラーム音とディスプレイにホームチャンネルを表示して、LEDフラッシュライトの点滅で、緊急を知らせることができます。

エマージェンシー機能を起動するには、エマージェンシーキーを3秒間長押しすると起動します。起動時には以下のように動作します。
(A) VHF帯のホームチャンネル表示
(B) アラーム音（音量は、**PWR/VOL** ツマミで調整できます）
(C) LEDフラッシュライトでSOSのモールス点滅表示
(D) **PTT**スイッチを押すと、VHF帯のホームチャンネルを送信している間、一時的にアラームが止まり、LEDフラッシュライトの点滅が止まります。
(E) **PTT**スイッチを放したあとで2秒後に、アラームとLEDフラッシュライトの点滅が再開します。

エマージェンシー機能を止めるには、エマージェンシーキーを押すか、**PWR/VOL**ツマミを反時計まわりにまわして、トランシーバーの電源をオフにします。

"**F7:UHF-ONLY**" モード（**FT-65** の取扱説明書参照）を設定している場合でも、**PTT** スイッチを押すと、VHF 帯のホームチャンネルで送信します。

ARTS機能(Automatic Range Transponder System)

ARTS(アーツ)機能を搭載した相手局と、交信できる状態かどうかを自動的に調べ、交信可能・不可能をディスプレイ表示と確認音で知らせる機能です。

各トランシーバーは同じDCSコードに設定する必要があります。確認音はお好みに合わせて設定できます。

ARTS機能を起動後に15秒または25秒ごとに1秒間、DCSコードが自動で送信されます。相手局が交信範囲内にいる場合は、"**IN.RNG**"が表示され、他局が交信範囲外の場合は、"**OUT.RNG**"が表示されます。

PTTスイッチを押す、押さないに関わらず、約10分ごとにモールス信号で自局のIDを送出することができます。

1分以上交信範囲外にいる場合は、トランシーバーが信号は無いと判断して、3回ビープ音をならしてから、"**OUT.RNG**"の表示に戻します。また交信範囲内に戻るともう一度、ビープ音が鳴り、"**IN.RNG**"表示に戻ります。

ARTS機能の起動中は、周波数やその他の設定を変更することはできません。通常画面に戻るには、ARTS機能を終了する必要があります。これは、周波数変更による不用意な通信を避けるためです。

ARTS 機能のセットアップと操作方法

1. 通信する全てのトランシーバーを同じDCSコードに設定します(7ページ参照)。
2. [**2**]キーを長押しします。
   - "**OUT.RNG**"がLCD画面に表示されます。
   - ARTS機能が起動します。

3. 25秒ごとにDCSコードを送信します。
   相手局の信号を確認すると"**IN.RNG**"が表示されます。

4. **F**キーを押す(または**[2]**キーを長押しする)とARTS機能を終了して、通常画面に戻ります。

ARTS機能(Automatic Range Transponder System)

ARTSチェック間隔の設定

ARTS機能は、25秒ごと(初期値)または15秒ごとに信号を確認するように設計されています。初期値の値は、よりバッテリー消費を減らすために長い方の時間に設定されています。

F キー長押し (セットモードに入る)	→	⇕キー押し (2 ARTS 選択)	→	F キー押し

1. [▲]または[▼]キーを押して、"**INTV**"を選択してから、**F**キーを押すと設定変更が可能になります。

```
 2 ARTS
→BEEP:OFF
 INTV:25SEC
```

2. [▲]または[▼]キーを押して、希望の確認信号の間隔(15秒または25秒)を選択します。
3. **PTT**スイッチを押すと、設定が保存され、通常画面に戻ります。

ARTSアラーム設定

ARTS機能は、2種類の確認音の動作がありますので、お好みに合わせて設定できます。

表示	説明
OFF	確認音は鳴りません。
INRANG	交信圏内に入ったとき、初回だけ確認音が鳴り、初回以降は、"**OFF**" の場合と同様に鳴りません。
ALWAYS	交信圏内で ARTS 信号を受信するたびに確認音が鳴ります。

F キー長押し (セットモードに入る)	→	⇕キー押し (2 ARTS 選択)	→	F キー押し

1. [▲]または[▼]キーを押して、"**BEEP**"を選択してから、**F**キーを押すと設定変更が可能になります。

```
 2 ARTS
→BEEP:OFF
 INTV:25SEC
```

2. [▲]または[▼]キーを押して、上表で説明した設定を選択します。
3. **PTT**スイッチを押すと、設定が保存され、通常画面に戻ります。

CW IDの設定

ARTS機能の起動中に、10分ごとに自分のコールサインなどを自動的に送出することができます。コールサインは最大6文字まで使用できます。
CWでIDを送出するためには、第三級アマチュア無線技士以上の資格とF2Aの電波型式の免許が必要です。

F キー長押し (セットモードに入る)	→	⇕キー押し (9 CW ID 選択)	→	F キー押し

```
9 CW ID
→TX:ON
 ID:------
```

1. **F**キーを押してから、[▲]または[▼]キーを押して、"**TX : ON**"を選択します。
2. **F**キーを押すと設定が保存されます。
3. [▲]または[▼]キーを押して 、"**ID**"を選択します。
4. キーパッドを押して、コールサインを入力します。
   - コールサインを1文字入力後に、[▲]キーを押すと次の文字へカーソルが移動します。
   - 間違いを訂正するには、訂正する文字にカーソルが移動するまで[▼]キーを繰り返し、押します。

> コールサインを実際に鳴らして、確認するには**MONI/T.CALL**キーを押します。

5. 文字の入力が終了したら、**F**キーを長押しすると、コールサインが保存されます。
6. **PTT**スイッチを押すと、設定が保存され、通常画面に戻ります。

> 入力したコールサインを確認するには、手順 1 ～ 6 を繰り返してから**MONI/T.CALL** キーを押します。

DTMF 機能を使う

DTMF(Dual Tone Multi Frequencies)は、プッシュホーン回線の電話をかけたときに受話器から聞こえる「ピッポッパッ」音のことです。フォーンパッチから公衆回線に接続するときに使う電話番号などを、最大16桁のDTMFコードで10チャンネル分登録できます。0から9の数字と[✱][#]の文字を使用します。

手動でDTMF コードを送出する

送信中にDTMFトーンを手動で送出できます。

F キー長押し (セットモードに入る)	→	⇕キー押し (12 DTMF SET 選択)	→	F キー押し

1. **F**キーを押してから、[▲]または[▼]キーを押して、"**MANUAL**"を選択します。

表示	説明
MANUAL **(初期値)**	DTMF コードの手動送出
AUTO	オートダイアラで DTMF コードを送出

```
 12 DTMF SET
→MODE  :MANUAL
 DELAY :450mS
 SPEED :  50mS
```

2. **F**キーを押すと設定が保存されます。
3. **PTT**スイッチを押すと、通常画面に戻ります。
4. **PTT**スイッチを押したまま、キーパッドの希望の数字を入力します。
   DTMFコードは、2 つの周波数の組み合わせです。

	1209Hz	1336Hz	1477Hz	1633Hz
697Hz	1 (1)	2 (2ABC)	3 (3DEF)	A (P1)
770Hz	4 (4GHI)	5 (5JKL)	6 (6MNO)	B (P2)
852Hz	7 (7PQRS)	8 (8TUV)	9 (9WXYZ)	C (P3)
941Hz	✱ (✱V/M)	0 (0SET)	# (#BAND)	D (P4)

オートダイアラ

9個のフォーンパッチの電話番号を登録して、短いコマンドで送ることができます。

F キー長押し （セットモードに入る）	→	⇕キー押し （13 DTMF WRT 選択）	→	F キー押し

1. [▲]または[▼]キーを押すか、[**1**] から [**9**] キーを押して、DTMFコードを登録する希望のメモリーを選択します。

```
 13 DTMF WRT
 ▼
D1 ----------
```

2. **F**キーを押して、DTMFコードの入力を始めます。
3. [**1**] ～ [**0**] キー、[**P1**] ～ [**P4**]キー、[**✱V/M**]、[**#BAND**]キーを押すか、[▲]または[▼]キーを押してDTMFコードの最初の桁を選択します。
4. **F**キーを押して、最初の桁を確定して、DTMFコードの次の桁に移動します。
5. 手順3～4を繰り返して、DTMFコードを入力します。
   間違いを修正するには、カーソルが最初の桁の位置に戻るまで、**F**キーを繰り返し押します（または**F**キーを長押ししてから**F**キーを押します）。
6. **F**キーを長押しして、DTMFコードを保存します。
7. **PTT**スイッチを押すと、通常画面に戻ります。

登録した DTMF コードを実際に鳴らして確認するには、上記の手順 1 で希望のメモリーを選択し、**MONI/T.CALL** キーを押します。

オートダイアラでDTMFコードの送出

F キー長押し （セットモードに入る）	→	⇕キー押し （12 DTMF SET 選択）	→	F キー押し

1. **F**キーを押してから、[▲]または[▼]キーを押して、“**AUTO**”を選択します。

```
 12 DTMF SET
→MODE  :AUTO
 DELAY:450mS
 SPEED: 50mS
```

2. **F**キーを押すと設定が保存されます。
3. **PTT**スイッチを押して送信しながら、登録したDTMFメモリーキー[**1**] ～ [**9**]を押します。
4. **PTT**スイッチを放します。
   DTMFコードの送出が終わるまで送信を続けます。

DTMFコードの送出スピードを変更するには、セットモードの“**12 DTMF SET**”で設定します。詳細は、34ページを参照してください。

その他の設定

パスワード機能の設定

FT-65には第三者の無断使用などを防ぐことができるパスワード機能があります。
パスワード機能を動作させると、電源を入れたときに4桁のパスワードを入力する画面になります。パスワードはキーパッドから入力します。

パスワードの設定とパスワード機能のオン/オフ

F キー長押し（セットモードに入る）	→	⇕キー押し（22 PASSWORD 選択）	→	F キー押し

1. **F**キーを押します。
2. [**0**] ～ [**9**]キーを押すか、[▲] または [▼]キーを押して、パスワードの1桁目を選択します。
   [▲]または[▼]キーを押した場合は、**F**キーを押すと1桁目を確定して、次の文字の位置にカーソルが移動します。

```
22 PASSWORD
      ▼
OFF  (----)
```

3. 手順2を繰り返し、4桁のパスワードを入力します。
   - 4桁のパスワードを入力後、カーソルは“**OFF**”または“**ON**”の位置に戻ります。
   - パスワード入力をやり直すには、手順1からやり直してください。

- パスワードは、忘れないように記録しておくことをお勧めします。
- 登録したパスワードを忘れた場合は、“**All Reset**”（取扱説明書参照）を実行すると、パスワードを入力せずに電源が入ります。ただし、“**All Reset**”を実行すると、登録したメモリー内容や各種設定値などのすべての情報がリセット（初期化）されます。

4. [▲]または[▼]キーを押して 、“**OFF**” **または** “**ON**”を選択します。
5. **PTT**スイッチを押すと、設定が保存され、通常画面に戻ります。

周波数ステップを設定する

FT-65は、マニュアルで周波数ステップを切り換えることができます。
AUTO/5/6.25/10/12.5/15/20/25/50/100kHzから選択することができます。
初期値は、自動的に受信周波数に応じた最適なステップに切り換わる“**AUTO**”に設定されています。通常は “**AUTO**”に設定しておくことをおすすめします。

F キー長押し（セットモードに入る）	→	⇕キー押し（30 STEP 選択）	→	F キー押し

1. [▲]または[▼]キーを押して、必要な周波数ステップを選択します。

```
30 STEP
  →AUTO
```

2. **PTT**スイッチを押すと、設定が保存され、通常画面に戻ります。

その他の設定

送信パワーセーブ機能の設定

相手局の信号強度がフルスケールの場合、自動的に送信出力が下がります（HIパワーのときはMIDパワーに、MIDパワーのときはLOWパワーに下がります）ので、バッテリーの消耗を抑えることができます。

F キー長押し（セットモードに入る）	→	⇕キー押し（33 TX SAVE 選択）	→	F キー押し

1. [▲]または[▼]キーを押して "**SAVE ON**"または、"**SAVE OFF**"（初期値）を選択します。

```
33 TX SAVE
 →SAVE OFF
```

2. **PTT**スイッチを押すと、設定が保存され、通常画面に戻ります。

送受信時の送受信インジケーターの点灯をオフにする

送受信時に点灯する送受信インジケーターをオフにすることでバッテリー消費を抑えることができます。

F キー長押し（セットモードに入る）	→	⇕キー押し（17 LED 選択）	→	F キー押し

1. [▲]または[▼]キーを押して、"TX"または"BUSY"を選択します。

```
17 LED
 →TX   :ON
  BUSY:ON
```

表示		説明
TX	ON（初期値）	送信中にインジケーターが点灯します。
	OFF	送信中にインジケーターが消灯します。
BUSY	ON（初期値）	受信中にインジケーターが点灯します。
	OFF	受信中にインジケーターが消灯します。

2. **F**キーを押すと、各設定の項目が確定します。
3. **PTT**スイッチを押すと、設定が保存され、通常画面に戻ります。

自動的に電源をオフにする(APO機能)

APO（オートパワーオフ）機能は、何も操作しないと自動的に電源がオフになる機能です。電源がオフになるまでの時間は、0.5時間から１２時間の間で0.5時間ごとに設定できます。初期値はOFFです。

Fキー長押し（セットモードに入る）	→	⇕キー押し（1 APO 選択）	→	Fキー押し

1. [▲]または[▼]キーを押して、電源がオフになる時間を選択します。

```
1  APO
 →OFF
```

2. **PTT**スイッチを押すと、設定が保存され、通常画面に戻ります。
   APO機能が動作中は、“🕒”アイコンが画面の右側に表示されます。その後、設定した時間が経過すると、自動的にトランシーバーの電源がオフになります。

> ! 設定時間を変更するたびに、自動的に電源がオフになる時間のカウントはリセットされます。

連続で送信できる時間を制限する(TOT機能)

TOT（タイムアウトタイマー）機能とは、１分から30分の設定した時間で連続送信した場合、自動的に受信状態に戻る機能です。
誤操作での不要な電波送出や、バッテリーの消耗が防げます。初期値は、OFFです。

Fキー長押し（セットモードに入る）	→	⇕キー押し（31 TOT 選択）	→	Fキー押し

1. [▲]または[▼]キーを押して、希望の最大連続送信時間（1分～30分（初期値はOFF））を選択します。

```
31  TOT
 → 3min
```

2. **PTT**スイッチを押すと、設定が保存され、通常画面に戻ります。

信号を受信中に送信を禁止する(BCLO機能)

BCLO（ビジーチャンネルロックアウト）機能とは、信号を受信中に、誤って送信しないようにする機能です。初期値はOFFです。

Fキー長押し（セットモードに入る）	→	⇕キー押し（4 B-CH. L/O 選択）	→	Fキー押し

1. [▲]または[▼]キーを押して、“**ON**”または“**OFF**”を選択します。
2. **PTT**スイッチを押すと、設定が保存され、通常画面に戻ります。

```
4  B-CH.L/O
 →OFF
```

送信変調度を変更する

送信変調レベルを通常の約半分に設定できます。初期値はWIDEです。通常はWIDEで使用してください。

Fキー長押し（セットモードに入る）	→	⇕キー押し（37 WIDE/NAR 選択）	→	Fキー押し

1. [▲]または[▼]キーを押して、"**NARROW**"を選択します。

37 WIDE/NAR
→NARROW

表示	説明
WIDE（初期値）	Wide (±5 kHz) 最大周波数偏移
NARROW	Narrow (±2.5 kHz) 最大周波数偏移

"**NARROW**"を選択すると、送信変調度が半分になります。

2. **PTT**スイッチを押すと、設定が保存され、通常画面に戻ります。

ボイスコンパンダー機能

ボイスコンパンダー機能とは、音声通話中のノイズを低減して、聴きやすくすることができる機能です。**FT-65**のトランシーバー同士での使用をおすすめします。

Fキー長押し（セットモードに入る）	→	⇕キー押し（7 COMPANDE 選択）	→	Fキー押し

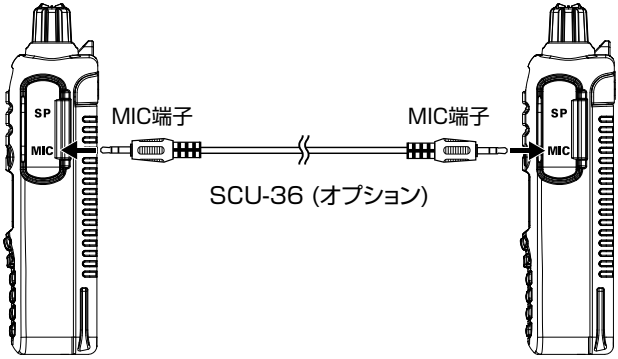
1. [▲]または[▼]キーを押して、"**ON**"または"**OFF**（初期値)"を選択します。
2. **PTT**スイッチを押すと、設定が保存され、通常画面に戻ります。

7 COMPANDER
→OFF

クローン操作

FT-65同士を接続して、メモリー内容や各種設定内容をコピーすることができます。

1. 本機の電源をオフにします。
2. オプションの**SCU-36**　クローンケーブルをMIC端子に差し込んで**FT-65**同士を接続します。

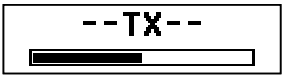


3. **MONI/T.CALL**キーと**PTT**スイッチを同時に押しながら、本機の電源をオンにします。

   もう一台のトランシーバーも同じように電源をオンにします（電源をオンにする順序はどちらでも構いません）。
4. それぞれのトランシーバーの[▲]または[▼]キーを押して、"**F9　:　CLONE**"を選択し、**F**キーを押します。

   クローン接続が成功すると、両方のトランシーバーに"**CLONE**"と表示されます。

5. 送り側のトランシーバーの**PTT**スイッチを押します。
   - 送り側のトランシーバーに"**- - TX - -**"と表示され、受け側のトランシーバーに転送されます。



   - 受け側のトランシーバーには、"**- - RX - -**"と表示されます。

   - クローン操作中にエラーが発生した場合は、"**CLONE ERR**"と表示されます。クローンケーブルの接続を確認してもう一度やり直してください。

   - クローン操作が成功すると両方のトランシーバーの画面に"**CLONE　OK**"と表示されます。
6. 両方のトランシーバーをオフにして、クローンケーブルを外します。

セットモード一覧

セットモードは、トランシーバーの様々な設定を選択や変更することができます。
セットモード項目とその設定内容の一覧は下記の表を参照してください。

1. **F**キーを長押しして、セットモードに入ります。
2. [▲]または[▼]キーを押して 、設定したいセットモードの項目を選択します。
3. **F**キーを押して、設定の変更が可能な状態にします。
4. [▲]または[▼]キーを押して、設定値を変更します。
5. 設定後に **PTT**スイッチを押すと、設定が保存され、通常画面に戻ります。

F キーを長押しすると、セットモード内の上層のメニューへ移動します。

項目 (下層のメニュー表示)	機能	設定値	初期値
1 APO	オートパワーオフ（APO) 機能の設定	OFF / 0.5H ～ 12.0H (Step 0.5H)	OFF
2 ARTS	ARTS 動作時のビープ音やチェック間隔の設定	BEEP= INRANG / ALWAYS / OFF INTV= 25SEC / 15SEC	BEEP=OFF INTV= 25SEC
3 BATTSAVE	受信時のバッテリーセーブ間隔の設定	200mS / 300mS / 500mS / 1SEC / 2SEC / OFF	200mS
4 B-CH.L/O	信号受信中の送信禁止設定（ビジーチャンネルロックアウト）	OFF / ON	OFF
5 BEEP	スキャンストップ時やキーパッド押下時のビープ音の設定	KEY+SC / KEY / OFF	KEY+SC
6 BELL	CTCSS/DCS/PAGER/ARTS のベル機能動作時の呼出回数設定	OFF / 1Time / 3Times/ 5Times / 8Times / CONTINUE	OFF
7 COMPANDE (COMPANDER)	ボイスコンパンダー機能のオン / オフ	OFF / ON	OFF
8 CTCSS (CTCSS TONE)	トーン周波数の設定	50 種類のトーン周波数 /OFF	TX=88.5Hz RX=88.5Hz
9 CW ID ※ CW で ID を送出するためには、第三級アマチュア無線技士以上の資格と F2A の電波型式の免許が必要です	ARTS 機能を使用しているときに動作する CW による ID 送出を設定します。	TX= OFF / ON ID= ------ (6 桁の英数字)	TX= OFF ID= 空欄
10 DC VOLT	ディスプレイに電源電圧を表示します。	–	–
11 DCS CODE	DCS コードの設定	104 種類の DCS コード /OFF	TX=023 RX=023
12 DTMF SET	DTMF 送出方法の設定 DTMF 送出のディレー時間と送出スピードの設定	MODE= MANUAL / AUTO DELAY= 50mS / 250mS / 450mS / 750mS / 1000mS SPEED= 50mS / 100mS	M=MANUAL D=450mS S=50mS
13 DTMF WRT	DTMF コードの設定	–	–
14 EDG.BEEP	バンドエッジ通過時のビープ音のオン / オフ	BEEP OFF / BEEP ON	BEEP OFF
15 KEY LOCK	キーパッドロック機能の設定	KEY / PTT / P+K	KEY
16 LAMP	ディスプレイとキーパッドの点灯時間の設定	5secKey / 10secKey / 30secKey / CONT / OFF	5secKey

セットモード一覧

項目 （下層のメニュー表示）	機能	設定値	初期値
17 LED	送受信インジケーターの点灯のオン / オフ	TX= ON / OFF BUSY= ON/ OFF	TX=ON BUSY=ON
18 MEM DEL **(MEM DELETE)**	登録したメモリーチャンネルの削除	–	–
19 MON/T-CL **(MON/T-CALL)**	**MONI/T.CALL** キーの機能設定の選択	MONITOR / T-CALL1750 / T-CALL2100 / T-CALL1000 / T-CALL1450	MONITOR
20 NAME TAG	登録したメモリーチャンネルの名前編集	–	–
21 PAGER	新ページャー機能の送受信個別コードの設定 アンサーバック機能のオン / オフ	TX: ** ** RX: ** ** ACK : ON/OFF	TX=05 47 RX=05 47 ACK=OFF
22 PASSWORD	パスワード機能の設定	OFF / ON (4 桁の数字)	OFF　(空欄)
23 PRI.RVT	プライオリティチャンネルのリバート機能のオン / オフ	RVT.OFF / RVT.ON	RVT.OFF
24 REPEATER	レピータの以下の設定 ・ARS（オートレピータシフト）の設定 ・レピータシフト方向の設定 ・レピータシフト幅の設定	ARS= ON / OFF MODE=SIMPLEX / +RTP / -RTP SHIFT= OFF / 0.05MHz ～ 99.95MHz(50kHz ごと)	ARS=ON MODE=SIMPLEX SHIFT=430MHz 帯は 5.00MHz、144MHz 帯は OFF
25 RESUME	スキャン停止時の動作設定	BUSY / HOLD / TIME	BUSY
26 RF SQL	RF スケルチのレベル設定	S-1 / S-2 / S-3 / S-4 / S-5 / S-6 / S-8 / S-FULL / OFF	OFF
27 SCN.LAMP	スキャンストップ時のランプの点灯のオン / オフ	ON/OFF	ON
28 SKIP **(SKIP SCAN)**	スキップメモリーチャンネルのチャンネル選択	–	–
29 SQL TYPE	トーンスケルチ /DCS の選択	OFF / R-TONE / T-TONE / TSQL / REV TN / DCS / PAGER	OFF
30 STEP	周波数のステップの設定	5 / 6.25 / 10 / 12.5 / 15 / 20 / 25 / 50 / 100 kHz / AUTO	AUTO
31 TOT	タイムアウトタイマー（TOT）の設定	1min ～ 30min(1 分ごと) / OFF	OFF
32 TX PWR	送信出力の設定	HI(5W) / MID(2.5W) / LOW(0.5W)	HI(5W)
33 TX SAVE	バッテリーセーブの設定	SAVE OFF / SAVE ON	SAVE OFF
34 VFO.SPL ※リセット / 特別な運用モードの「F8:DUAL DISP」設定時のみ設定可	VFO スプリット運用の設定	VSP.OFF / VSP.ON	VSP.OFF
35 VOX	VOX 機能の設定	VOX OFF / VOX ON	VOX OFF
36 WFM.RCV	WFM モードのオン / オフ	WFM.ON / WFM.OFF	WFM.ON
37 WIDE/NAR	FM モードの送信変調レベル設定	WIDE / NARROW	WIDE

セットモード一覧

セットモードの各設定項目の詳細について説明しています。表内の太字の項目が初期値です。

1　APO

APO(オートパワーオフ）時間の設定

APOの時間（一定時間、何も操作しないときまたはSQLが開かないとき、自動的に電源をオフにするまでの時間）を設定します。APOが設定されているときは，ディスプレイに"⏻"が表示されます

OFF	自動的に電源をオフにしません。
0.5H ～12H（時間）	何も操作しないときまたはSQ L が開かないときに、設定した時間を経過すると自動で電源がオフになります。

詳しくは26ページを参照してください。

2　ARTS

ARTS 動作時の確認音やチェック間隔の設定

BEEP	**OFF**	確認音は鳴りません。
	ALWAYS	交信圏内に入ったとき、初回だけ確認音が鳴り、初回以降は、"OFF"の場合と同様に鳴りません。
	INRANGE	交信圏内でARTS信号を受信するたびに確認音が鳴ります。
INTV	**25SEC**/15SEC	ARTS動作時のチェック間隔を設定します。

詳しくは20ページを参照してください。

3　BATTSAVE

受信時のバッテリーセーブ間隔の設定

OFF	バッテリーセーブ機能は動作しません。
200mS～2SEC（時間）	受信セーブ機能が動作して、信号を受信してないときに、設定した時間、自動的に受信の動作をオフにします。

4　B-CH.L/O

信号受信中の送信禁止設定（ビジーチャンネルロックアウト）

信号を受信中に、誤って送信しないように設定します。

OFF	信号を受信中でも送信します。
ON	信号を受信中は送信しません。

詳しくは26ページを参照してください。

5　BEEP

スキャンストップ時やキーパッド押下時のビープ音の設定

OFF	ビープ音は鳴りません。
KEY+SC	キー操作時やスキャン停止時などにビープ音が鳴ります。
KEY	キー操作時にビープ音が鳴ります。

詳しくはFT-65の取扱説明書を参照してください。

6　BELL

CTCSS/DCS/PAGER/ARTSのベル機能動作時の呼出回数設定

相手局からの呼び出し(同じトーンやDCS、新ページャーコード、ARTSを含む信号を受信)をベル音で知らせるかどうかを設定します。

OFF	ベル音は鳴りません。
1Time ～ 8Times	ベル音が鳴る回数を1～8回から設定できます。
CONTINUE	キー操作を行うまでベル音が連続で鳴り続けます。

詳しくは8ページを参照してください。

7　COMPANDE(COMPANDER)

ボイスコンパンダー機能のオン/オフ

音声通話中のノイズを低減して、聴きやすくすることができます。

OFF	ボイスコンパンダー機能がオフになります。

ON	ボイスコンパンダー機能がオンになります。

詳しくは27ページを参照してください。

8　CTCSS（CTCSS TONE）

トーン周波数の設定

50種類のトーン周波数から選択することができます。初期値は送受信とも88.5Hz。

TX	送信のトーン周波数、または OFF を設定します。
RX	受信のトーン周波数、または OFF を設定します。

選択できるトーン周波数（Hz）					
67.0	69.3	71.9	74.4	77.0	79.7
82.5	85.4	**88.5**	91.5	94.8	97.4
100.0	103.5	107.2	110.9	114.8	118.8
123.0	127.3	131.8	136.5	141.3	146.2
151.4	156.7	159.8	162.2	165.5	167.9
171.3	173.8	177.3	179.9	183.5	186.2
189.9	192.8	196.6	199.5	203.5	206.5
210.7	218.1	225.7	229.1	233.6	241.8
250.3	254.1	–	–	–	–

詳しくは7ページを参照してください。

9　CW ID

トーン周波数の設定

ARTS機能を使用しているときに動作するCWによるID送出を設定します。
CWでIDを送出するためには、第三級アマチュア無線技士以上の資格とF2Aの電波型式の免許が必要です。

TX	**OFF**	CWでIDを送出しません。
	ON	CWでIDを送出します。
ID	------	CW の ID（6 桁の英数字）を設定します。

詳しくは21ページを参照してください。

10　DC VOLT

電源電圧の表示
ディスプレイに電源電圧を表示します。

詳しくは4ページを参照してください。

11 DCS CODE

DCSコードの設定
デジタルコードスケルチ（DCS）を使うと、こちらで設定したDCSコードが含まれた信号を受信したときのみスケルチが開きます。
104種類の中から選択することができます。初期値は送受信とも023です。

TX	送信の DCS コード、または OFF を設定します。
RX	受信の DCS コード、または OFF を設定します。

DCS コード一覧									
023	025	026	031	032	036	043	047	051	053
054	065	071	072	073	074	114	115	116	122
125	131	132	134	143	145	152	155	156	162
165	172	174	205	212	223	225	226	243	244
245	246	251	252	255	261	263	265	266	271
274	306	311	315	325	331	332	343	346	351
356	364	365	371	411	412	413	423	431	432
445	446	452	454	455	462	464	465	466	503
506	516	523	526	532	546	565	606	612	624
627	631	632	654	662	664	703	712	723	731
732	734	743	754	–	–	–	–	–	–

詳しくは7ページを参照してください。

12 DTMF SET

DTMF 送出方法/DTMF送出のディレー時間/送出スピードの設定

MODE	**MANUAL** / AUTO	DTMFコードをマニュアル（手動）、またはオートダイアラで送出する方法を設定します。
DELAY	50mS/250mS/ **450mS**/750mS/ 1000mS	**PTT**スイッチを押してから、DTMFコードが送出されるまでの時間を設定します。
SPEED	**50mS**/100mS	50mS:1 秒間に 10 文字の割合で DTMF コードが送出されます。 100mS:1 秒間に 5 文字の割合で DTMF コードが送出されます。

詳しくは22ページを参照してください。

13 DTMF WRT

最大16桁のDTMF信号を登録することができます(合計9チャンネル)。

詳しくは23ページを参照してください。

14 EDG.BEEP

バンドエッジ通過時のビープ音の設定

[▲]または[▼]キーで周波数をスキャン時およびメモリースキャン時に、バンドエッジやメモリーチャンネル1を通過したときのビープ音をオン/オフすることができます。

BEEP OFF	ビープ音が鳴りません。
BEEP ON	ビープ音が鳴ります。

15 KEY LOCK

PTTスイッチとキーパッドのロック機能の設定

KEY	キーパッドの操作をロックします。
PTT	PTTスイッチの操作をロックします。
P+K	PTTスイッチとキーパッドの操作をロックします。

詳しくはFT-65の取扱説明書を参照してください。

16 LAMP

ディスプレイとキーパッドの点灯時間の設定

5secKey	5秒後にディスプレイやキーパッドが消灯します。
10secKey	10秒後にディスプレイやキーパッドが消灯します。
30secKey	30秒後にディスプレイやキーパッドが消灯します。
CONT	ディスプレイやキーパッドが点灯したままになります。
OFF	ディスプレイやキーパッドが消灯したままになります。

詳しくはFT-65の取扱説明書を参照してください。

17 LED

送受信インジケーターの点灯のオン/ オフの設定

TX	**ON** / OFF	送信時に点灯するインジケーターをオン/オフできます。
BUSY	**ON** / OFF	受信時に点灯するインジケーターをオン/オフできます。

18 MEM DEL(MEM DELETE)

登録したメモリーチャンネルの削除

詳しくはFT-65の取扱説明書を参照してください。

19 MON/T-CL(MON/T-CALL)

MONI/T.CALLキーの機能設定の選択

MONITOR	モニターとして動作します。
T-CALL1750	1750Hzのトーン信号を送出します（主にヨーロッパで使用します）。
T-CALL2100	2100Hzのトーン信号を送出します（主にヨーロッパで使用します）。
T-CALL1000	1000Hzのトーン信号を送出します（主にヨーロッパで使用します）。
T-CALL1450	1450Hzのトーン信号を送出します（主にヨーロッパで使用します）。

20 NAME TAG

登録したメモリーチャンネルの名前を編集

メモリーチャンネルに、最大8桁の名前をつけることができます。

詳しくはFT-65の取扱説明書を参照してください。

21 PAGER

新ページャー機能の送受信個別コードの設定/アンサーバック機能のオン/オフ

新ページャー機能を使用する際の個別コードを設定したり、呼び出しを受けたりしたときに自動的に約2.5秒間送信する(アンサーバック)機能のオン/オフができます。

TX	01～50	送信用の個別コードを設定します（初期値は05 47）。
RX	01～50	受信用の個別コードを設定します（初期値は05 47）。
ACK	**ON** / OFF	アンサーバック機能をオン/オフします。

詳しくは10ページを参照してください。

22 PASSWORD

パスワード機能の設定

詳しくは24ページを参照してください。

23 PRI.RVT

プライオリティチャンネルのリバート機能のオン/オフ

プライオリテイ機能が動作中に**PTT**スイッチを押すと、指定したメモリーチャンネルで優先的に送信することができます。

RVT.OFF	プライオリティチャンネルのリバート機能がオフになります。
RVT.ON	プライオリティチャンネルのリバート機能がオンになります。

詳しくは17ページを参照してください。

24 REPEATER

ARS（オートレピータシフト）のオン/オフ、シフト方向の設定、シフト幅の設定

ARS	**ON** / OFF	ARS機能の動作をオン/ オフします
MODE	**SIMPLEX** +REP -REP	レピータのシフト方向を設定します。 SIMPLEX：シフトしません。 +REP：周波数の高い方へシフトします。 -REP：周波数の低い方へシフトします。
SHIFT	0～99.95M/OFF	レピータのシフト幅を設定します。 430MHz帯は、**5.00MHz**。144MHz帯は、**OFF**。

詳しくはFT-65の取扱説明書を参照してください。

25 RESUME

スキャン停止時の動作設定

BUSY	信号を受信するとスキャンは停止します。スキャンは、信号が無くなると1秒後にスキャンを再開します。
HOLD	信号を受信するとスキャンは停止します。スキャンは、再開しません。
TIME	信号を受信するとスキャンは停止します。信号を受信中でも5秒後にスキャンを再開します。

詳しくはFT-65の取扱説明書を参照してください。

26 RF SQL

RF スケルチのレベル設定

設定以上の信号強度（Sメーター値）の信号を受信したときだけ、音声を出力するように設定します。

S-1	Sメーターが“1”以上の信号を受信したときだけ、音声を出力します。
S-2	Sメーターが“2”以上の信号を受信したときだけ、音声を出力します。
S-3	Sメーターが“3”以上の信号を受信したときだけ、音声を出力します。
S-4	Sメーターが“4”以上の信号を受信したときだけ、音声を出力します。
S-5	Sメーターが“5”以上の信号を受信したときだけ、音声を出力します。
S-6	Sメーターが“6”以上の信号を受信したときだけ、音声を出力します。

S-8	Sメーターが“8”以上の信号を受信したときだけ、音声を出力します。
S-FULL	Sメーターが“フルスケール”の信号を受信したときだけ、音声を出力します。
OFF	RFスケルチ機能がオフになります。

詳しくは4ページを参照してください。

27 SCN.LAMP

スキャンストップ時のバックライト点灯のオン/オフ設定

スキャン実行中に信号を受信してスキャンが停止したときにディスプレイとキーパッドの照明点灯をするかどうかを設定する機能です。

ON	スキャンストップ時はバックライトが点灯します。
OFF	スキャンストップ時はバックライトが消灯します。

詳しくは17ページを参照してください。

28 SKIP(SKIP SCAN)

スキップメモリーチャンネルのチャンネル選択

詳しくは14ページを参照してください。

29 SQL TYPE

トーンスケルチ/DCSの選択

詳しくは6ページを参照してください。

30 STEP

周波数のステップの設定

[▲]または[▼]キーを押したときの周波数変化量を変更することができます。

5～100kHz	設定した周波数変化量で変更することができます。
AUTO	自動的に周波数の最適値が設定されます。

詳しくは24ページを参照してください。

31 TOT

タイムアウトタイマー（TOT）の設定

設定した時間で連続送信した場合、自動的に受信状態に戻る機能です。

1min～30min	設定した時間で自動的に受信状態に戻ります。
OFF	自動的に周波数の最適値が設定されます。

詳しくは26ページを参照してください。

32 TX PWR

送信出力の設定

HI(5W)	送信出力を5Wにします。
MID(2.5W)	送信出力を2.5Wにします。"M"アイコンが画面に表示されます。
LOW(0.5W)	送信出力を0.5Wにします。"L"アイコンが画面に表示されます。

詳しくはFT-65の取扱説明書を参照してください。

33 TX SAVE

送信パワーセーブの設定

相手局の信号強度がフルスケールの場合、自動的に送信出力が下がります（HIパワーのときはMIDパワーに、MIDパワーのときはLOWパワーに下がります）ので、バッテリーの消耗を抑えることができます。

SAVE OFF	送信パワーセーブがオンになります。
SAVE ON	送信パワーセーブがオフになります。

詳しくは25ページを参照してください。

34 VFO.SPL

VFOスプリット（たすきがけ）運用の設定

VFO-Aに設定した周波数（受信）とVFO-Bに設定した周波数（送信）を使用して、異なる周波数で送受信することができます。この設定項目を設定するには、特別な運用モード画面で、ABバンド表示にする必要があります。

VSP.OFF	VFOスプリットがオンになります。
VSP.ON	VFOスプリットがオフになります。

詳しくは5ページを参照してください。

35 VOX

音声による自動送受信切り換え（VOX）機能

SSM-512B VOXイヤピースマイクでVOX機能を使用する場合に設定します。

VOX.OFF	VOX機能がオフになります。
VOX ON	VOX機能がオンになります。

詳しくは4ページを参照してください。

36 WFM.RCV

WFMモードのオン/オフ

FMラジオ等を受信する場合にWFMモードを使用します。

WFM.ON	WFMモードがオンになります。
WFM.OFF	WFMモードがオフになります。

37 WIDE/NAR

FMモードの送信変調レベル設定

送信変調レベルを設定します。通常は“WIDE”のままで使用します。

WIDE	通常の送信変調レベルです。
NARROW	送信変調レベルが通常の約半分になります。

詳しくは27ページを参照してください。

本製品または他の当社製品についてのお問い合わせは、お買い上げいただきました販売店または、当社カスタマーサポートにお願いいたします。

八重洲無線株式会社　カスタマーサポート
電話番号　0570-088013
受付時間　平日９：00 ～ 12：00、13：00 ～ 17：00

八重洲無線株式会社 〒140-0013 東京都品川区南大井6-26-3　大森ベルポートD-3F

ⓒ 2023 **八重洲無線株式会社**　無断転載・複写を禁ず

2303-B